



中春別小学校  
学校便り

窓

第7号

発行責任者 校長 若松 正  
令和5年9月29日発行

## 力を合わせ きらきら笑顔を届けよう！

今月中旬に行われた中春のお祭り。従来の形で行われるのは4年ぶりです。宵宮祭では、小学生も踊りやダンス、空手の演舞で盛り上げてくれました。また本祭の祭典行列では、太鼓の拍子に合わせて御稚児さんやお神輿の担ぎ手として中春の町を練り歩き、行く先々で踊りを披露しました。

お家の方にも手伝ってもらったのでしょう、フェイスシールにアイシャドウ、びっちり編み込んだ髪は、まさに晴れの装い。祭りを盛り上げようという心持が伝わってきます。そんな子どもたちの装いと躍動、そして笑顔は、観ている人に楽しんでほしい、そして自分たちも楽しもうという気持ちがあふれていました。

地域の大人や高校生・中学生、そして園児たちと一緒に盛上げた経験は、かつての自分の姿を振り返るとともに、いつかの自分の姿を想像することのできるよい経験になったことと思います。

毎年春先に行われている全国学力学習状況調査の児童質問紙の中に「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問があります。全国や全道の平均と比べて本校児童の数値が際立って高い項目の一つです。そして「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という問いに対する肯定的な回答の割合も同じように高いです。地域行事などの場面で、実際に活躍している姿を見ると、納得できる結果だということがわかります。そして、子どもたちの高い自己評価を生み出している根底にあるものが、地域力だということを改めて感じさせられます。「地域の行事に進んで参加しよう」とか「社会をよくするために何ができるか考えましょう」などの言葉だけの働きかけでは身に付きづらい、生きてはたらく力なのだ強く感じます。

さて、来月の半ばには学芸会が控えています。数ある学校行事の中でも、観ている人に楽しんでほしいという気持ちと、そのために自分たち自身が楽しまなくっちゃという気構えが最も発揮される取組だと思います。一学期から同じ目標を共有し、支え合い、協調し合いながら積み上げてきた学級の力、国語の物語や音楽の歌・演奏、体育でのダンスなど、授業で培ってきた力。そして、特別な活動だからという思いが合わさり、これからの取組期間を通して生みだされる行事を通して高め合う力。きっとその他にもたくさんの方が混ざり合い、きらきら笑顔のパフォーマンスを生み出してくれることと思います。当日は大勢の皆様のお越しとあたたかな声援をお待ちしております。今から楽しみです。

宵宮祭の開会式での祭典委員長さんからの挨拶の中で、「神社ができたのは昭和3年」とお話しされてきました。昭和3年といえば、中春別小学校が開校したのと同じ年です。今月15日に95周年を迎えた中春別小学校。その長い歴史のほんの95分の1の今年度。その今を、<sup>一年</sup>きらきら輝かせるために、子どもたちは<sup>一瞬</sup>めいっぱい、今に向き合っているのだと思います。

朝晩の気温の違いが際立つ頃を迎えました。ひんやりと冷たく感じる空気に、ようやく季節もバトンタッチしたのかなと思うと、さんざんぼやいていた夏の暑さがちょっぴり懐かしく思い出されたりもします。もちろん、ないものねだりの“夏の終り”です。

どうぞお体にご留意いただければと存じます。

